巻頭言

「安全で安心に暮らせるまちづくり」の実現に向けて

広島市消防局長　貞森　英樹

広島市は、緑豊かな山々、風向明媚な瀬戸内海、清らかに流れる太田川、瀬野川などの豊かな自然に恵まれた、美しい都市景観を有するまちです。この「広島」という地名は、天正17年(1589年)、毛利輝元が太田川の河口に築城を始め、「広島」と命名したことに由来すると言われています。

明治22年（1989年）に市政を施行し、その後、日清戦争の戦時下において大本営が設置されるなど「軍都」としての性格を強める一方で、広島高等師範学校の設置などにより「学都」としての性格も併せ持つ近代都市として発展しましたが、昭和20年（1945年）８月６日、原子爆弾により壊滅的な被害を受け、多くの人命と街を失いました。

しかしながら、市民の郷土愛と国内外からの暖かい御支援により復興を遂げ、昭和55年には全国で10番目の政令指定都市となり、現在も中四国地方の中枢都市として発展を続けています。

本市では、将来にわたって大きく発展していくための指針として「広島市総合計画」を策定し、「国際平和文化都市」を都市像に掲げ、「世界に輝く平和のまち」「国際的に開かれた活力あるまち」「文化が息づき豊かな人間性を育むまち」の三つの視点から、持続可能で魅力ある都市の実現に向けた取組を進めています。また、人口減少への対応と地域全体の持続的発展を図るため「200万人広島都市圏構想」を掲げ、広島広域都市圏を構成する33市町と連携し、それぞれの強みを生かした圏域全体の活性化と、人口200万人超の維持を目指した施策を推進しています。

消防局では、この計画に基づき、近隣市町と連携した消防体制の充実や医療救護体制の整備など、さまざまな取り組みを進めています。

主な取組として、令和5年度から更新整備を進めてきた消防ヘリコプターが令和７年10月に納入され、各種訓練を経て令和８年2月から本格運用を開始しました。機体の大型化や性能向上により、逃げ遅れ・孤立者の同時救助能力や林野火災での空中消火能力、物資搬送能力が強化され、共同利用する県内各市町をはじめ、中国五県消防防災ヘリコプター相互応援協定を締結している中国各県など広域的な消防・防災体制の充実・強化に寄与するものと考えています。

さらに、令和８年2月から、119番通報者が送信するスマートフォン映像を活用する「Live119」の運用を開始しました。これにより、現場状況の正確な把握や、映像を見ながらの応急手当の指導が可能となり、災害対応の迅速化と安全性の向上が期待されます。

また、高齢化の進展等に伴う救急体制のひっ迫に対応するため、救急需要が高まる夏季・冬季に救急資格を有する消防隊員による非常用救急自動車の運用を行っており、加えて救急車の適正利用や医療機関の適正な受診についての普及啓発を行うことにより、高まる救急需要に対し、引き続き的確に対応してまいりたいと考えています。

今後も激甚化・頻発化する自然災害や、刻々と変化する社会情勢等に的確に対応し、「安全で安心に暮らせるまちづくり」の実現に向け、職員一丸となって取り組んで参ります。